

シンガポールのブラスバンド事情

福田昌範(洗足学園音楽大学プリティッシュブラスバンド企画運営責任者)

昨年、二度にわたりシンガポールで国際コンクールの審査員



(International Brass Festival of Singapore)とクリニック、そして指揮(2nd Youth Band Festival of Singapore)を行ってきました。その際に垣間見れたシンガポールのブラスバンド事情について、お話してみたいと思います。

まず、シンガポールはとにかく暑い！昨年渡航したのが、7月下旬と12月だったのですが、ほとんど気温は30度を超えていて、常夏の国です。文化や宗教も様々で、いろいろな食文化も楽しむ事ができる大変魅力的な国です。そんな中、行われたコンクールには様々な国のバンドが参加していました。お隣のマレーシアはもちろん、中国、台湾、タイなど、アジアのバンドが多数参加しており、遠いところでは、スイスのバンドも参加していました。コンクールは日本同様、吹奏楽の形態が多く、ブラスバンドは？と、いうと、シンガポールの小学校のバンドが数団体参加していました。

コンクールの合間に、審査員はクリニックを催す、というのがシンガポール流！講評を書いたバンドにコンクール終了後すぐにクリニックを行います。そこで私は二つのブラスバンドを指導する機会を得ました。それは、Rivervale primary school と La Sallian brass band という二つの小学校のブラスバンドでした。



二つのバンドは、小学校2年生から6年生までの約40名くらいの

メンバー構成でした。いずれも、プリティッシュブラスバンドの形態をとっており、ホルネット、テナーホーンなど、ブラスバンドで使用するオリジナルな楽器を使用していました。

ただ、この二つのバンドは楽器の配置がそれぞれ違っており、プリティッシュブラスバンドのオリジナルの配置とも違います。私は疑問に思い、それぞれの顧問の先生に「ブラスバンドのオリジナルの配置はご存知ですか？」と、質問を投げかけたところ、顧問の先生方はブラスバンドの配置については熟知されていて、バンドの事情で配置を変えている、ということでした。

さて、演奏は？と言うと、これが大変立派で、日本の素晴らしい小学校ブラスバンドに負けずとも劣らない素晴らしいサウンドを響かせていました。シンガポールでは、中学、高校、一般のブラスバンドは、残念ながらまだない、という事でしたが、数名のブラスバンド出身の指導者の方にも会うことができました。

今後この国にも、そして広くアジアの国々にもブラスバンドの形態が、更に深く浸透して行く事を願って止みません。